

高齢者から生き抜く知恵を学ぼう

昨深夜、「自殺救出ー東尋坊、命の番人ー」を見た。

福井県の東尋坊で自殺しそうな気配のある人に声をかけている元警察官の自殺防止活動の150日を追ったドキュメンタリー番組であった。

昨年の東尋坊での自殺者は21名、元警察官の声かけで自殺を思い止まった人は27名とか。

そして、今日は敬老の日。

つい、番組と高齢者の精神力を重ね合わせて、あれこれ考えてしまった。

高齢者については、以前に当HP「街中の高齢者対象のカウンセラーかもね（「雑学BN」の随想等関係（IV）、2006.01.17.：参照）」でも触れたことがあるが、身体的長寿にももちろん敬服するが、それより長年生き抜いてきたその精神的たくましさには感服する。

と云うのも、ここ数年の年間自殺者数が3万人を越えているように、自殺に至らなくても生きることに色々と追いつめられることが多いだけに、高齢者として長年の人生で色んなことに出会い、辛苦、心労も大変だったろうと想像でき、それらをどう乗り越え今に至ったのか、今はどういう心境での日々なのだろうかと、その精神力というか、生き抜いてきた知恵を学びたいもの。

リタイヤを考え出した頃、「人間（人類）は、なぜ老齢期が長いのか？（「雑学BN」の随想等関係（I）、2001.12.25.：参照）」と、メル友等に尋ね、次世代に知恵を伝えるためと理解したにも拘わらず、自分は未だちょっとしたことでも右往左往し、また、下世話の心境からも抜け出せない、まだまだ未熟（？）な高齢者予備軍。

高齢者は我々若僧（？）にもっともっと生きる知恵を授けて欲しいし、我々若僧（？）も、日頃からもっともっと高齢者から生き抜く知恵を学ぶ姿勢を持たなくっちゃあ～と思う。

さて、「敬老の日」を「高齢者から生き抜く知恵を学ぶ日」と呼称してはどうだろうか。